

## # 385 「悦びに踊らされて生きる」

ヨハネ第一の手紙 4 章 8-10 節 : 創世記 2 章 17 節 : ヨハネの福音書 3 章 14 節

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏

皆さん、おはようございます。先ほど 桜の話が出て来ましたが、まさか皆さん、サクラじゃないでしょうね。私は“桜”と聞くと、やはり何といっても、大学の合格発表のことを思い出します。実は今日、息子の国家試験の合格発表の日で、自己採点では合格しているのですが、正式な通知をもらうまでは落ち着かない。名前書き忘れてるんちゃうかとか あり得る人なので、なにかソワソワと落ち着かないんです。

実はわたくし 2 浪しまして、ようやく大学に入ったのです。色々事情があったので、高校卒業して新聞配達してました。配達所に住み込んで、朝刊を配り 夕刊を配る。そして、折り込みといって新聞広告を作るのですが、私の配達所は機械ではなく指にゴムサックはめて、折り込みを何十枚も作っていくんです。その作業だけで 1 時間から 1 時間半掛かりました。その中で、昼間に予備校に行くんです。そのシステムを取ると、予備校の授業料を新聞社から前借りできたんですね。当時から 予備校は私立大学並みに高かったので、私はその方法を取ったんです。

合格圏内の大学なので、まあ大丈夫だろう。本番の前に毎月模擬テストがあるんです。年に 12 回。A の時もあるし B の時もあるけど、まあまあ行けるだろうということだったんですが、いくつかやらかしたことがあります…落ちたんですねえ。

合格発表の場所は天王寺（てんのうじ）にあった大阪教育大学天王寺校舎。キャンパスが合併して、今はもう無いんですけど。そこに見に行くと、私ともう 1 人クリスチャンの受験生。彼も落ちたんです。2 人で「合格発表は不合格発表なんだ」と痛感しながら、寺田町（てらだちょう）から天王寺の駅まで歩くんですが上り坂。てくてく歩きながら、私は「どうやって母親に伝えたものか」と思いました。

家では私の合格発表を待っているんです。でも私は、どうしても「だめだった」と言えなかったんですね。それを聞いた時 どんなにガッカリするだろうかと思うと、電話を掛ける気力がない、というか勇気がない。それで、電話しなかったんです。そのまま 3 時半からの夕刊配達をしました。

私が勤務していたのは産経新聞の住吉区帝塚山（てづかやま）販売所です。産経新聞は系列新聞に大阪新聞があって、夕刊だけ発行するんですが、ここは関西の国立大学の合格者名を全員掲載するんですね。十代の受験生が、カタカナですが、自分の名前が新聞に載って中々ないことじゃないですか。それで記念にということで、日頃は読者じゃないけど、本人や家族が一人 10 部 20 部買って行くんです。配達所ではその時だけ、大阪新聞を日頃の倍以上用意する。買いに来るんですよ、合格者が。

「10 部下さい!」「20 部下さい!」 よっぼどね、「売り切れました」言うてやろうかと。山のようにあるんですけど。それをね、「おめでとう」と言って渡すのが本当にしんどかったです。

「高原君、1 年間頑張ったけど駄目だった。」業務が全部終わって、配達所のみんなが掛ける言葉がない。みんな、さーっと蜘蛛の子を散らすように去ってしまって。1 人で店の片付けをしてアパートに帰り、その時は携帯電話ないので公衆電話に行って「駄目だった…」と母親に言いました。そしたら、「合格したら、いの一番に電話して来ると思ってたから、夜になっても電話がないところをみると『ああ、ダメだったんだなあ』」と思ってた。そう…」とだけ言ってね、何にも言わなかったですね。

それが私にはありがたいことでした。妙に励まされたりすると、よけいしんどかったと思います。

「残念だ」とも言わず、ただ「そう…」とだけ言って受話器を置いてくれたことに、母の思いやりを思い出しましたね。

それから私はどうしたかというと、住吉区から東住吉区まで新聞配達自転車でまたがって、東住吉キリスト教会に行ったんです。今ここは北田辺駅近辺にありますが、当時は今川駅の線路の向こう側にあったんですね。集会が発足してまだ1年くらいの時ですよ。

その時、4日連続の特別集会の初日だったんです。夕刊配り終わって、折り込みも全部終えて、自転車で40分くらい掛けて来るので、集会に着いたのは夜の10時頃。もう来られた人たちはみんな帰っているのですが、集会の男性クリスチャンたちはみんな、私が来るのを待っていたんですね。

そして「ああ、よく来たねえ」と迎えてくれました。

特別集会のメッセンジャーは北海道から来た夫婦で三橋（みつはし）さん。ホテルにも帰らずに待っていてくれたんですね。憔悴しきっている私を見て、「よかったら、私と話して帰りませんか。」「はい」と。

私は「ダメだったんです。兄弟姉妹（\*クリスチャンたちのこと）をガッカリさせてすみません」みたいな。

「こんな時に『すみません』なんか言うもんじゃない」と、あるクリスチャンに言われたのを覚えているんですけど。

三橋さんは3歳の時に小児麻痺に罹って、両手両足動かないんです。動くのは片方の手の3本の指だけ。だから聖書開く時、上半身を揺すって、反動でポンと手を台の上に置くんです。その手の3本の指だけで聖書を開いてお話されるのですが、実にパワフルな方でした。

しかし、私はそのメッセージをまだ聞いてないんです。終わってから来たから。

その時、私に自分の息子さんのお話をされました。

「長男は北海道でも有数の進学校、皆現役で北海道大学に合格するという、進学率が非常に高い高校に行って、とっても良い成績だった。ところが、現役の時に北大を落ちてしまった。

一浪の時は、もう大丈夫と思って北大以外受けなかったら、また落ちてしまった。落ちるはずがないということで、高校の先生も予備校の先生も首をかしげるばかりだけど落ちていた。

二浪の時は万が一ということで、北大以外に私立大学を4校ほど受けた。念には念をとということで、まず行くつもりはない、全然興味も関心もない、畜産か何かの牛や羊を飼う大学も受けておいたけど、なんと全部落ちた。偏差値的にも絶対落ちることはあり得ないという大学も落ちた。

なぜなんだと思った時、その大学から『補欠で入れますけど、どうしますか』と連絡があった。」

ご長男は運動神経も良くて頭も良くて、男前で明るくて、いつも上機嫌。上機嫌の人のところに人は集まって行きますよね。どこでも人気者。彼が部屋に入って来たらパーッと明るくなるような人。

高校まではそうだったけど、大学受験で惨憺たる目に遭って、しかも親が伝道者ということで、受けたもののお金がない。

ところが、この大学はミッション系で、親が牧師や伝道者の場合は授業料免除というのを後で知るんですね。これは神様が導いているんだということで、彼は不平を持ちながらもその大学に入るのですが、そこでの様々な出会いが、彼の後の生涯の方向性を決定付けて行くことになるんです。

その話をされている時、私はうつむいていました。クリスチャンたちに見せる顔がない。自分でも情けない。

なんで、こんな事になってしまったかなあ…。うつむいて「はい…。はい…。はい…。」

そして、一通り話を終えられたようなのでパッと顔を上げて、私に語りかけてくれている三橋さんの顔を見たら、泣いてるんです。驚きました。

初対面の 十代の 憔悴しきっている若者を励ますために、全然血の繋がりもないのに、なんとか助けたい。なんとか立て直したい。そう思って、息子の失敗談を隠すことなく、涙ながらに赤裸々に話してくださったんです。

私は幼い時に父を亡くしたので、父親というものがイメージ出来ない。父親像というものが、もうひとつ浮かばないんですね。クリスチャン…信仰の家族というのですが、その人の中に、キリストにある父親の姿を見たように思いました。彼が「神様は愛だから。愛である神様からは、愛以外のものは出て来ないんだから」と仰ったのを強烈に覚えてるんです。

先ほど言ったように、三橋さんは体が不自由で、壇の上に上がる時も奥様におんぶされて来るんです。そして、椅子を大分高く上げたところに「よっころしょっ」と座らせてもらって、手を反動で置いて、聖書を語るのですが、そのメッセージというのが実に力強いんですねえ。お話ではなくて、自分の身の上に起こったことの話しなのです。

力ある言葉って率直な話じゃないですか。作り話じゃなく、赤裸々に、自分が本当に思っていることを伝える率直な言葉には力があると思います。自分の色んな病気のことや、お母さんが亡くなって新しいお母さんに育てられたけど、そのお母さんがとっても良いお母さんで、愛をたくさん受けたというお話をよくしてくださいました。

自分の辛かったことを率直に言っているのではなく、辛かった自分に対して神はこんなにも良くしてくださった、ということ率直に話すんです。つまり、希望のメッセージなんですよ。恨み節じゃない。喜びの力の言葉。喜びから出て来る 力ある言葉だったんですね。

その方が言いたいことをひと言で要約すると、「神は愛なんだから、愛である神様からは愛以外のものは出て来ない。君は神様の子供になったんだから、その君に愛以外の取り扱いをすることは絶対はない！」愛に生きている人がそう言ったので、説得力がありましたね。

この方、映画になってるんです。『北国に駆ける愛』という 30 分くらいの映画で、いつも講演の前に上映するんですって。自分の映画上映してから話しするって、凄い度胸あるなと思ったんですけど、もう本当にドラマみたいな人生。

それで今日、このことを話ししようと思いました。「神は愛なんだ！」これは彼が作った言葉じゃなく、聖書の中に出て来る言葉なんです。それを一緒に考えてみましょう。

聞いている時にメッセージそのものでなくても、気づきが与えられる時がありますね。誰かに教えられるのも、誰かの解説を聞くのもいいんですけど、聞きながら、神様によって もっと深いことをハッと気づかされる時があります。そういうのはとっても財産になると思います。ちょこちょこっとメモするだけでも、後々振り返った時に深められるためのヒントになるんじゃないかなと思いますので、ご自分の聖書をお持ちの方はメモされるといいと思います。私の聖書もメモだらけになりました。

### ヨハネ第一の手紙 4 章

**8 愛のない者は神を知りません。神は愛だからです。**

**9 神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちにいのちを得させてくださいました。**

**それによって神の愛が私たちに示されたのです。**

**10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥（なだ）めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。**

**8 愛のない者は神を知りません。神は愛だからです。**“神は愛です”と書いてあるんです。

この愛である神ご自身があなたをお造りになりました。神があなたを造った動機は愛です。

神はあなたを愛の対象として造ったのです。あなたが生まれて来たらどんなに良いだろうと思いながら、あなたを創造したのです。人は神に愛され、また神に愛されていることを味わって、神を愛し返すために造られました。

あらゆる人格関係の中で一番素晴らしいのは、愛と信頼による関係だと思います。脅迫や無理強い・外的コントロールの関係ではない。愛と信頼による自発的な関係ほど、人を躍動させるものはないと思います。

「ああ、生まれて来て良かったわ！」と腹の底から言えるような生の躍動を経験させたいと思って、神様は私たちが造ってくださったと言えるんですね。

昨年 孫が生まれまして、じいさんになりました。私のイニシャルはGなので Gさんなんですけど。

今まだ 1 歳未満なんですけど、ちょうどイヤイヤ期に入ってるんですね。もう、いやいや！イヤイヤ！イヤイヤって言いたい。

特に、親以外の人に抱っこされるのを ものすごく嫌がります。息子はそれをよく知っていて、「お父さん、抱いてみたら？」って言うんですね。「そうかあ」とか言いながら抱き上げるとですね、まあ嫌がる嫌がる。イヤだ言うだけじゃなくて、エビぞり、分かりますか？ 危ない！ 落としそうになる。

とにかく 1 秒でも早く逃れたいっ！ イヤ～っ！

そんで親が抱いたらピタッ！ 泣き止みますよ。笑ってるけど、前の瞬間まで流していた涙がぼろぼろ流れてるんですね。「(ダミ声で) そんなに嫌か」みたいなね。気になるんですけど。

それを見ながら、大人もそういう面があるんじゃないか。誰を自分の目の前に置くかによって、喜んだり・悲しんだり・緊張したり・安心したりするんじゃないですかね。

大人はね、自分の思っていることをモロに表しません。そんなのは子供じみてますよね。

嫌な人と会う時でもニコニコしてたり、怖い人と会う時にもニコニコしてたり、とにかく相手に失礼な態度を取らないように振る舞う。そういうようにマナーを学んでいるわけですね。

だけど正直なところ、やっぱり厳しい人の前に出ると緊張するし、優しい人の前に出ると こっちも柔らかい表情になるし、悲しんでいる人の前に出ると こっちも重くなるし、私を応援してくれている人の前に出ると やっぱり笑顔になるものですよ。つまり、自分というのは自分だけでつくってるんじゃない。誰と対面するかによって自分は変わるんですね。

神は、神という飛び切り上機嫌で、気前が良くて、愛そのものである方と向かい合いながら、愛と信頼の関係の中で生きるように人間を造ってくださったのです。どうして？ 神は愛だからです。

愛である神様からは、愛以外のものは出て来ないんです。神様は、愛である神との交わりの中で私たちがイキイキと生きるように、初めから設計されたんですね。神は愛だからです。

ところが、人間はこの神様から離れてしまった。

**10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、**と書いてますね。

神と向き合って生きるように、向き合う時に輝いていけるように設計されて造られたにもかかわらず、神から離れ、神と向き合うことをやめ、「神なんかいない・要らない・創造主なんか必要ない」と神に背を向けて、神との関係を切って生きる選択をしたんです。これを罪と言います。

法律破る。物を盗む。これはもちろん罪ですが犯罪ですよ。

聖書が言う一番根本的な罪は、私たちが愛して造ってくださった方との愛の関係を切って、神から家出すること。神に背を向けて関係を切ることなんです。もしそうするならば人は死ぬ。必ず死ぬ、と神様が最初の人間アダムに仰っている箇所があります。

**創世記 2 章 17 節。** 人が神との関係を切ったらどんなことになるのか、を要約している言葉です。  
**しかし、善悪の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べるとき、あなたは必ず死ぬ。**

**必ず死ぬ**という言葉はヘブライ語でモット タムート。モットもタムートも死ぬという動詞です。モットは死ぬという動詞の不定詞。タムートは死ぬという動詞の未完了形。  
直訳は、**その木から食べるとき、あなたは死んで死ぬ。**

死んでしまったら、もうそれ以上死なれへんやん。いや。神から離れ、神との関係を切るならば、あなたは死んで、そして死ぬ。2つの死がある。

取って食べた瞬間、神との関係が死んだ。これを“霊的ないのちが死ぬ”と表現する人もいます。

霊が死んだ。それから時間差で肉体も死ぬ。いのちのルーツである神様との関係を断ち切ったために、人は死んでから死ぬものとなった。

神との交わりを切ったら、自分自身の価値を神に造られたところに見出すのではなく、競争で測るので人と比べるんです。その結果、人間は2つの極端に行くのではないかと私は考えます。

人と比べて、私はダメ人間なんだと思い込んだ人は、劣等感で周りの人々との間に壁を作ります。

ダメ人間だと思いこんで確信すると、どんなに励まそうが慰めようが「口だけや。」「あなたはそう思っても私は思わない。」壁の中に閉じこもってしまって、交わりができません。

特別に優秀だと思い込んだ人は、優越感によって周りの人々との間に壁を作ります。近寄り難い。

私が勤務している時、会社にとんでもない人がいたんですね。出来た人。賢い。切れ味抜群。

こんな賢い人が、なんでこんな会社にいるんかなと。でも出来過ぎるので、よく部下に言っていました。

「なんで俺に聞かんのや。自分で失敗して。分からんことあったら俺に聞けや！」

そう言う人に限って、聞きにくいんですよ。なんかこう、質問させないオーラをプワ〜出しながら「なんで聞きにけえへんかった？」って、聞きに来るなというのを無言で出してるやん。

で、聞いたら聞いたで、「今それをする時間じゃない。」「ここは学校じゃない。」その人に鍛えられました。

忘れられないのは、人間関係ルールブックみたいなノートを作ってたんですけど、会社を辞める時、他の人からコピーさせてくれと。10部以上コピーされた。ベストセラーなるんちゃうかなと。

その人とのやり取りで教えられましたねえ。

ダメ人間と思い込んだ人は、劣等感で他の人との間に壁を作って交われなくなり、偉い・凄いと思っている人は、優越感で周りの人との間に塀を作って交われなくなる。分け隔てのない交わりができなくなる。

圧倒的に偉大なる神を知ったら「私が出来るって、そら なんぼのもんやねん」と。

圧倒的に偉大なる神が私を造ったのなら、私の存在そのものの価値は圧倒的に偉大な方に依拠しているわけで、失われるはずがないんです。

神から離れた結果、人は生きているけど死んだような人生観で生きることになる。お互いに傷つけあうような人生観になってしまう。そして最終的に肉体が死にます。

死には分離という意味があって、ギリシア語でサナトス／分離・バラバラになる。

体と魂がバラバラになること。これが死です。

そして、体から抜け出した魂が死後の世界で、神と永久に離ればなれになる世界に行くことを“第二の死”というんですね。神との交わりを離れた結果、人は死ぬものとなり果ててしまった。

### ヨハネ第一の手紙 4 章 10 節

**私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。**

私たちが神を愛したのではなく、私たちは神を愛さない者になってしまった。

最も愛されてしかるべき方・愛される理由を最も多く持つておられる神を愛さない・愛せない、ある場合は憎む・邪魔だと言うような者になってしまった。そんな私たちなのに、**神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。**

昔読んだ短編を一生懸命思い出して、所々抜けているのですが。

ある人が、友達数人とキャンプファイヤーをしました。薪に火を点けた時、ゴソゴソと動くものがある。組み込んだ木に挟まれて動けなくなっている蛇。熱くてたまらんものだから、炎の中で蛇が七転八倒、暴れまくっている。でも、木材の重量のほうが大きくて、蛇は逃れられない。「へび、焼かれとるわ！」そしたら 1 人の男が、かわいそうやしっぽをつかんでシュッと引っ張り出してやるんですが、その瞬間に腕を咬まれた。「痛い！」振りほどいたら、また焚火に落ちてしまったんですね。すると その男が枝を取って、その蛇の逃げ道を作って、また逃がしてやったんです。

世の中には、生き物をすごく大事にする人がいますね。色んな動物保護官がいて、アフリカの国立公園などで密漁者たちから動物を守ったり、罠に掛かった動物の罠を解いてやったり、病気の治療してやったり。そういうことに一生を掛ける人がいます。

彼は生き物が大好き。だけど、咬みついたんですよ。

「おまえの腕に咬みついたんだぞ。なんで助けてやるんだ？」

「へびはしっぽつかまれたら咬みつく、というのが本性であり習性なんだ。その習性は DNA に焼き込まれているので、どんな人でもしっぽをつかんだら、へびはグツと裏返って咬みつく。そういうものなんだ。へびがしっぽをつかんだ者に咬みつくのは本性で、生き物を大切にすることは私の本性。へびが本性を変えることができないように、生き物を大切にしたい私の本性も変えることはできない。へびが咬んだ、習性通りに行動したからといって、私の本性は変わらない。影響を受けないんだ。」

神は愛です。これは神の本質です。人が罪を犯したことによって神の本性は変わりません。

人が神に反逆して噛みついたからといって、神は愛であることをやめない。やめることができないのです。

神が愛であるというのは本性なので、したりしなくなったり、やったりやめたりではない。

神はそういうご性質のお方なのだ、と聖書は語っているんです。

ご自分に逆らい、噛みつき、傷を負わせる罪人になり果てた人間のために、神は**私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。**

**宥めのささげ物。**神は私たちの罪を赦すためにイエス・キリストを送ってくださいました。

この方は神の位を捨てて、人としてこの世界に来てくださいました。そして、親切の限りを尽くし、罪の無い生涯を送り、最後 十字架に掛かって私たちの罪を背負い、身代わりとして処罰を受けてくださったんです。

ご自分が十字架に掛かるということを、キリスト自身は別の表現で言われています。

**ヨハネの福音書 3章 14節**。イエスの言葉です。

**モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられなければなりません。**

聖書の中に蛇が最初に登場するのは、人間の先祖アダムとエバを誘惑するシーンです。

悪魔が乗り移って、人間を誘惑するための道具として用いました。人間を誘惑し、罪を犯させるために大役を果たした結果、蛇は呪われたものとなったと聖書に書いてあります。

イエス・キリストはご自分のことを蛇にたとえたんです。聖書の中で、蛇は呪われたものという意味であることを、もちろんよくご存知ですよ。呪われたものである蛇に、ご自分をなぞらえたんですね。

**モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子（イエス・キリスト）も上げられなければなりません。**

「わたしは蛇のように、呪われたものとならなければならない」と言われたのです。

**モーセが荒野で蛇を上げた**とは、「青銅で作った蛇を木の竿に付けて高く掲げ、誰でもその蛇を仰ぎ見る者は、毒蛇に咬まれて瀕死の状態であっても癒される。助かる。救われる。」そんな故事があったんです。見た人は皆救われました。

青銅は神殿の中の祭壇（いけにえの動物を焼き尽くす場所）に用いられた金属で、聖書的常識では裁きを表す材料です。また、木の竿に付けて高く掲げた。聖書には、木に吊るされた者は呪われた者であると書いてあるんですね。

キリストは“蛇という呪われたもの・青銅という裁かれたもの・木に付けられたという呪われた者”にご自分をなぞらえて、**人の子も上げられなければなりません**と言われたのです。

なぜどこにも罪の無いお方が、このように呪われ、裁かれなければならないのでしょうか。

私たちの罪を赦すためです。罪を赦すためにキリストはたった一人で、あなたの全ての罪、全人類の全ての罪を背負って、十字架に掛かって死んでくださいました。

私はこのことを考えた時、じっとしてられないんですよ。キリストは私を愛して、呪われた者となるために十字架に掛かり、実際に私の罪を背負って死んでくださった。しかも、それを愛で行ってくださった。キリストは私を愛して、そんなことまでもしてくださった。

それを考えた時、私の心はイエス・キリストに引きつけられる。引き寄せられます。

人は、神に愛し愛されるために造られているからです。愛に反応せずにおれないんですね。

そしてキリストは、この愛の十字架の身代わりが本当に成功したんだということを示すために、3日目によみがえられました。

この手紙を書いたヨハネはよみがえったキリストと対面し、キリストの愛を、十字架を通して一層深く確信した人です。その愛を私たち届けようと思って、5つも聖書を書きました。

**ヨハネの福音書、ヨハネの手紙 1・2・3、黙示録。**

その全部を通して言いたいのは、「人はキリストを通して救われます！」

いかがでしょう。イエス・キリストはあなたのための救い主です。

ぜひ自分の救い主として、信じて受け入れてください。救われます。心からお勧めします。

ひと言、お祈りしましょう。

